



カトリック 新庄教会報

Kapit Kamay

カピット カマイ

9

カトリック新庄教会 〒999-4601 最上郡舟形町角形 445-1

vol.4

Tel.0233-32-0234 Fax.0233-32-0243

<http://www.catholic-yamagata.com/shinjo-church/>



# 舟形町縄文炎祭



## 「舟形縄文祭」へ参加して

五十嵐マリ

1994年に舟形町・西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」土偶が国宝に指定され、第1回目の記念イベントとして「舟形縄文炎祭」が開催されました。私たちカトリック教会もそのイベントに協賛しました。バンブーダンス、モダンダンス、そして「縄文炎祭」に合わせて、小さな炎を持って踊るフィリピンの民族舞踊「バンドンゴサイラウ」を披露しました。また「ハロハロ」「ロンビア」「ポト」「マン

ゴージュス」などフィリピン料理も出店し、たくさんの方々にご召し上がりいただき、喜んでいただきました。とても暑く忙しかったけれど、「縄文炎祭」は私たちにとって楽しく、思い出に残る1日となりました。舟形町の皆さん、出店の手伝いをしてくださった山形教会の皆さん、そして「縄文炎祭」に来てくださったすべての皆さんに、心から感謝いたします。

# サマースクール 2012



今年のサマースクールは、新庄カトリック教会で行われ、参加者は小学生20名でした。リーダーは高校生、中学生そして社会人と多数参加してくれました。

子供達は3日間教会に泊まり、それぞれの班でリーダーを決め、舟下りや森の探索、プールやキャンプファイヤーなど楽しみながら、いろいろな事を学びました。教会のシスターやお母さん達は、皆さん達のために美味しい食事を作ったり、一生懸命お世話をしてくれました。お母さん達も子供達と一緒に楽しい時間を過ごすことが

出来ました。

3日間とても暑かったけれど、子供達は元気で怪我もなく過ごす事が出来て嬉しく思っています。夜はみんなでBBQやキャンプファイヤー、ゲームや踊りもあり楽しいひと時でした。最後の日はちょっぴり寂しかったけれど、笑顔で握手を交わしバスに乗り込みました。また会える日を楽しみにしています。サマースクールに参加した子供達、リーダー、教会のお母さん達、本当にありがとうございました。





## 共に祈った復活祭

主イエスが使徒たちと最後の晩餐を共にした聖木曜日から聖週間は始り、十字架の上での苦しみと死を受け入れられた聖金曜日、そして死からの復活を祝う復活祭へと続きます。今年は聖木曜日と復活祭に、フィリピン人であるロス神父様とマイケル神学生が来てくれました。聖木曜日のミサは午後9時からと遅かったにも関わらず、多くの信者さんが参加しました。ミサの中でイエス様が弟子たちの足を洗ったように、司祭も信者の足を洗います。その事によって私たちは、イエス様の謙虚さを見習って日々

の生活を生きていくことを学びます。説教の中でもロス神父様は、聖週間の意味を優しく教えてくれました。日曜日には、イエス様の復活を祝うために私たちは、イースターエッグとフィリピン料理を皆の手で作りました。準備をする皆の眼には喜びがあふれていました。誰かのために何かをそっと作る。その事は、弟子たちの足を洗われたイエス様にほんの少しだけ近づける一つの方法なのかも知れません。謙虚な行いの中にこそ本当の喜びはあるのです。私たちの故郷フィリピンから来てくれたロス神父様とマイケル神学生と共に祝った復活祭は、楽しく嬉しい復活祭でした。



## 雨の中での「花見の会」

春の遅い最上にもよつやく春がやつこ米ました。教会の庭にある10本の桜の木が満開を迎えた5月4日、「お花見の会」開宴です。バーベキューのお肉や野菜、冷たい生ビールや地酒にワイン、みんなで手分けをして準備は万端整ったものの、夕方からぱらぱらと雨が降り始めてきました。仕方がないホールでやるかと思ったその時、お誘いしていたご近所の方々が大きなテントを持ってやって来ました。「せつかくの花見なんだから、やっぱり外がよかつべよ」。男衆がテキパキと張ってくれたテントの中で、肩を

寄せ合っの楽しい宴の始まりです。憎らしい雨ですが、その雨のお陰で近所の方々の優しさを知り、肩寄せ合ったテントの中で、また一人ひとりの心の距離がちょっぴり縮まった気のした花見の宴でした。

でも食べて飲んでしゃべって歌って、誰一人花を見ている人はいなかったような気もするのですが…



## 十字架リレーについて

4月15日、素晴らしい晴大の中、十字架リレーが新庄に到着しました。山形教会から36名の方々によって十字架とアルバムが運ばれてきました。山形教会の沼沢会長さんを先頭に、皆さんが坂を登って来られた時は胸が熱くなりました。御聖堂に向かう私達一人ひとりに何が運ばれてきたのでしょうか？ミサが始まり、多くの人の中で暖かい家族の中に埋もれそうな思いで終わりました。新庄教会の信者4名の方の発表がありました。来日から15年から24年の皆さんのご苦勞の様子が分かり、神様から

のお恵みを願わずにいられません。頑張り！ また、黒一点、井上哲也さん、新庄教会と共に受洗2年目、私達の頼れる存在です。そして、ダルクより、グループ運営への協力支援のお願いがありました。どうぞ目標が達成しますように…。昼食はカレーとサラダでした。皆さん、新庄教会の愛が入ってましたか？この十字架リレーで一つになれたでしょうか？私達の少しの努力でそれは可能なのではと思います。神に感謝。(斉藤悦子)



## 初聖体 (First Communion)

6月17日に、4人の子供達が初聖体を受けました。初聖体を受ける子は、かわいいドレスを着るのがあたりまえです。子供達はとてもパンをもらうのを楽しみにしていました。父母達や回りの人達も見守っていました。

信仰の事をいろいろ学んで、シスターの教えたとおりに初聖体の勉強を一生懸命やっていました。これからは勉強したことを教会のために忘れないように頑張って、そして、小さい子供達の良いお姉さん、お兄さんでいて下さい。

奥山ゆめと…初聖体を勉強して楽しかったです。イエス様の事を初めて知りました、そして前からパンを食べられる日を楽しみにしていました。

結城みほ…教会に行くのは意味あるのかなって、ずっと思っていました。教会に連れられて、本当はイヤでした。だ

けど、いつも連れられて友達ができました。侍者しなやかになって勤められて、少しきもちが変わりました。初聖体の勉強会をするのを聞いたときに、それって何と意思しました。初聖体の前に勉強会があって、みんなと一緒に勉強して、いろんなことをおぼえました。教会に行くことをちょっとでも理解し、初聖体を受けたことが、とっても嬉しかったです。私のなかでは、イエス様の事をいっぱい学べました。

折原みか…初聖体ってどう言う事か本当にわかりませ

んでした。けれどもいつも教会に連れられて、聞きたい事がいっぱいありました。たとえば、「ミサのときに、どうして、紙みたいなものをみんな食べているのかな？」どうしても聞きたいから、お母さんに聞きました。「あれは紙じゃありません、ただで食べられません」と教えられました。初聖体を受けなければならないと、お母さんが言いました。初聖体受ける前に勉強会があって、いろんな事を学びました。初聖体受けた事がとっても嬉しかったです。

結城あかね…ミサが始まる時に、御聖堂に向かって、みんなでろうそくを持ってドキドキしました。神父様とお話して、けんかした事とか、神父様があらってくれて嬉しかったです。この日に初聖体を受け、パンを食べられてとっても嬉しかったです。

## 洗礼式と改定入管学習会



6月3日の「三一の主日」、新庄教会では、小さな赤ちゃんの洗礼式がありました。フィリピン人のお母さんと初めて教会に来た日本人のお父さん。赤ちゃんはスヤスヤ眠っていましたが、両親、特に教会に生まれて初めて入ったというお父さんは緊張でカチカチのようでした。でも神父様の説教で心がとても軽くなったとお母さんが



ミサの後話してくれました。その後、難民移動移住者委員会が主催の「改定入管法の学習会」が開催され、講師の佐藤信行先生から説明をして頂きました。7月9日から新入管法がスタートするとあって、お話の後は、次々と質問の手が上がりましたが、先生の丁寧で分かりやすい回答に、参加者は皆頭をうなずかせながら聞いていました。



## The First Gathering Of Foriegners in Sendai Diocese

A year has passed since the nightmare of March 11 happened. It has been labeled in Japanese the 東北地方太平洋沖地震 (Tohoku-chiho Taiheiyo-oki Jishin), the biggest earthquake ever to hit Japan. It struck at 14.46 with a magnitude of 9.0 and was assigned the highest level 7 on the Japanese earthquake scale. Because of this, a lot of people were forced to abandon homes and businesses in the shadow of the Fukushima nuclear plant. Tens of thousands of refugees are still in limbo, unable to return and having to battle for compensation. Some of those who fled the clouds of radiation that spewed from the plant after it was swamped by last March's tsunami could be allowed home over the next few years as areas are decontaminated. But others may be unable to return for decades. Some towns will effectively pass into history, little more than names on a map where no one lives because it is too dangerous. Twelve months on from the disaster, few have received the compensation payouts they expected from the plant. Some feel helpless, with one describing the battle for compensation as in to "ants trying to tackle an elephant". Outside the zone in Fukushima prefecture as a whole, 1.5 million have been affected, with livelihoods lost. As farmland has been polluted, roads can't be used and businesses \_ such as hotels or shops \_ closed. Another major problem they are facing now is the effects of the radiation. Nuclear victims still don't see a clear picture of how much damage they have suffered since it might not become apparent for many years. With the First Gathering of Foreigners in Sendai Diocese held last Saturday, June 23rd, at Corasse Fukushima. A lot of participants from all over Japan attended in the hope of sharing to their fellow Christians any humanitarian help that they can offer. It's just a big co-incidence that the total participants on that day is 311 which becomes more meaningful as the date of the calamity had happened exactly a year ago of the same date. The first workshop was focused on how the incident affected the lives of each and everyone. And from the information that was gathered, a lot of voluntary groups become united in order to be of service to their fellowmen. The second workshop was more focused on how each and everyone can help, especially those who are still struggling for their daily life. The presence of Bishop Hiraga and Bishop Matsuura also helped because some people were able to ask personally how the church stands and what hope every church in Sendai Diocese wishes to convey to the higher authority of the church in Japan. As a whole it was indeed a very wholesome gathering with the hope of being united and be of service to every fellowmen especially foreigners living in Japan. (Cristine Sato)



# ようこそ新庄教会へ

新庄教会においていただいたゲストをご紹介します。



7月8日、新庄教会に沢山の方が遊びに来ました。  
「聖心ウルスラ学園」から4名のシスター、笠井教会から3名のフィリピン人、  
そして、二戸部様が久しぶりに教会に来ました。とても懐かしくて、会った  
時に涙が出ました。とても嬉しかったです。元気でよかったです。

## 十字架のイエス様が結んだご縁で

シスター 伊東 幸子

7月8日(日)、新庄教会へ初めて訪問いたしました。私どもの短大(聖心ウルスラ学園)から、十字架像をプレゼントしたことが訪問の理由でした。教会の玄関に溢れんばかりの明るい声と優しい皆さんのお顔。すっかり、初対面から親しい姉妹になりました。

新しく改築された聖堂にぴったりの十字架。イエス様はこの新庄教会の方々が仰ぎ見られる時、「大丈夫だよ。私のもとにいらっしやい」と、大きく手と心を開いて、お恵みを注いでくださることでしょう。今日、神父様、皆さまにお会い出来たことを感謝いたします。

## 笠井 Church

"We have heard your hardships and sacrifices you've met before this "beautiful blessings" came to you. This is really an amazing grace from God, a place your church you can call your own home.

Congratulations and thank you for everything. May the good Lord continue to bless you more abundantly. Maraming salamat po…….